

令和4年度第2回八千代市介護保険事業運営協議会 議事録

1 開催日時

令和4年11月22日（火）午前9時30分～午前11時00分

2 開催場所

八千代市役所 旧館4階 第2委員会室

3 議題

議題1 会長及び副会長の選出

議題2 八千代市高齢者等の保健福祉・介護保険ニーズ調査について

議題3 報告事項（八千代市介護保険事業運営協議会の開催スケジュールについて）

4 出席者名等

＜委員＞計14名（敬称略）

中村 明澄, 稲山 雅治, 島田 さえ子, 田中 由佳, 綱島 照雄, 金田 万里子, 周郷 光枝,
渡部 正敏, 関野 薫, 小林 清次, 津川 康二, 福田 久江, 椎名 美代子, 中谷 力

＜事務局＞計13名

糟谷部長, 伊藤次長（健康福祉部2名）

岡崎課長, 熊井副主幹, 平田主査, 下田主査, 渡辺主査補, 上松主任主事（長寿支援課6名）

高倉地域包括支援センター所長, 関口主査補（地域包括支援センター2名）

馬場副主幹（健康づくり課1名）, 株式会社IRS（委託事業者2名）

5 公開又は非公開の別

公開

6 傍聴者数

0名（定員5名）

7 配布資料等

- ・会議次第
- ・八千代市介護保険事業運営協議会委員名簿
- ・席次表

資料1 八千代市高齢者等の保健福祉・介護保険ニーズ調査について

資料2 令和4年度八千代市ニーズ調査における設問項目案

資料3 令和4年度八千代市ニーズ調査における設問項目案に対する質問

資料4-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票見本（高齢者一般調査）

資料4-2 在宅介護実態調査票見本

資料4-3 介護保険サービス提供事業者調査票見本

資料5 令和5年度八千代市介護保険事業運営協議会の開催スケジュール

8 会議内容

別紙のとおり

令和４年度第２回八千代市介護保険事業運営協議会 会議内容（令和４年１１月２２日）

事務局（熊井副主幹）：

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和４年度第２回八千代市介護保険事業運営協議会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日司会を務めます、長寿支援課 熊井と申します。よろしくお願いいたします。

本協議会は「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」第４条の規定により、会議を公開するとともに、会議録作成のため、会議の状況を録音させていただきますので、あらかじめ御了承ください。

また、御発言の際は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクを付けたまま御発言いただきますようお願いいたします。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

まず、事前に送付させていただきました

資料１

- ・八千代市高齢者等の保健福祉・介護保険ニーズ調査について

資料２といたしまして

- ・令和４年度八千代市ニーズ調査における設問項目案

こちらは、お持ちをいただいておりますでしょうか。

続いて、本日机に置かせていただきました資料となりますが、

- ・本日の会議次第
- ・八千代市介護保険事業運営協議会委員名簿

資料３といたしまして

- ・令和４年度八千代市ニーズ調査における設問項目案に対する質問

資料４は各種調査票の見本となりまして、

- ・４の１、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票見本（高齢者一般用）
- ・４の２、在宅介護実態調査票見本
- ・４の３、介護保険サービス提供事業者調査票見本

資料５といたしまして、

- ・令和５年度八千代市介護保険事業運営協議会の開催スケジュール

以上、資料７点と、本日持参していただくようお願いしておりました２点の資料が本日の会議資料でございます。

事務局に予備がございますので、不足している場合はおっしゃってください。

他の資料とあわせ、配布漏れがないか、ご確認ください。

資料の確認は以上です。

本会議の開催に当たりまして、健康福祉部長の糟谷からご挨拶申し上げます。

糟谷健康福祉部長：

本日はお忙しい中、令和4年度第2回八千代市介護保険事業運営協議会にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より本市の保健福祉行政に対しまして、ご理解とご協力を賜り、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げさせていただきます。

さて、今年度は3か年を周期とする八千代市高齢者保健福祉計画の中間年度に当たり、来年度に実施を予定しております、次期計画の策定に向け、高齢者の保健福祉介護保険ニーズ調査を来月実施いたしますが、当該調査は、八千代市内の高齢者の生活状況や、保健福祉、介護保険に関する意見や要望を把握し、高齢者の保健福祉行政を計画的かつ効果的に推進するとともに、次期計画の基礎資料とすることを目的としたものでございます。

本日の会議では、主に今回の調査で使用いたします、調査票についてご審議をいただきたいと思っておりますので、委員の皆様におかれましても、忌憚のないご意見をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局（熊井副主幹）：

それでは、次第に沿って始めさせていただきます。

はじめに、次第1、委員の皆様方のご紹介をさせていただきます。

本来であれば、令和3年度に委員をお引き受けいただいていた際に、委嘱状の交付とあわせてご紹介させていただくところでしたが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、書面による会議とさせていただいておりましたので、今回がお集まりいただいて開催する初めての会議となりますことから、改めてご紹介させていただきます。

前回からの再任の方も多くいらっしゃいますが、新任の方もおられますので、八千代市介護保険規則第58条の規定に基づき委嘱されました委員の方々をお一人ずつご紹介いたします。

お名前をお呼びいたしますので、おそれ入りますが、その場でご起立いただき、一言だけご挨拶いただきたいと存じます。終わりましたらご着席ください。

なお、学識経験者で東京成徳学園の朝比奈 朋子様、市民公募委員の宮崎 すみ江様につきましては、本日所用により、欠席とのご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

初めに、八千代市医師会から中村 明澄様

八千代市歯科医師会から稲山 雅治様

八千代市薬剤師会から島田 さえ子様

千葉県習志野健康福祉センターから田中 由佳様

八千代市社会福祉協議会から綱島 照雄様

八千代市社会福祉協議会ボランティアグループ介護者連絡会から金田 万里子様

八千代市民生委員・児童委員協議会連合会から周郷 光枝様

八千代市長寿会連合会から渡部 正敏様

八千代市自治会連合会から関野 薫様

八千代市介護サービス事業者協議会から小林 清次様

同じく 八千代市介護サービス事業者協議会から津川 康二様

市民公募委員として、 福田 久江様

同じく 公募委員の椎名 美代子様

同じく 公募委員の中谷 力様

以上でございます。ありがとうございました。

続きまして、次第2，事務局職員の紹介をいたします。

改めまして、健康福祉部長の糟谷です。

健康福祉部次長の伊藤です。

長寿支援課長の岡崎です。

地域包括支援センター所長の高倉です。

健康づくり課副主幹の馬場です。

長寿支援課主査の平田です。

長寿支援課主査の下田です。

長寿支援課の関口です。

長寿支援課の渡辺です。

長寿支援課の上松です。

以上でございます。

ここで、議題に入らせていただく前に、健康福祉部長の糟谷と次長の伊藤につきましては、公務の都合により退席させていただきますので、ご了承願います。

それでは、次第3、議題に入らせていただきます。

まず、先ほどご案内のとおり、今回が新たな任期となり、お集まりいただいて開催する最初の協議会となりましたので、改めて議題（1）本協議会の会長及び副会長を八千代市介護保険規則第59条の規定に基づき選出したいと思います。

最初に会長となられる方を選出したいと思いますが、どなたかご推薦いただける方がおりましたらお願いいたします。

小林委員：

コロナ禍という特殊な状況でございますことから、前期からの引き続きで、綱島八千代市社会福祉協議会会長にお願いできればと思います。

事務局（熊井副主幹）：

小林委員から、綱島委員との推薦がございましたが、皆様いかがでしょうか。

異存がないようでしたら、拍手をもってご承認願います。

皆様にもご承認いただきましたので、綱島委員に会長をお願いできればと思います。

よろしくお願いいたします。

それでは、次に副会長を選出したいと思いますが、どなたかご推薦はございますか。

特にいらっしゃらなければ、綱島会長からご推薦いただけますか。

綱島会長：

私からでよろしいでしょうか。

それでは、八千代市医師会の中村委員が適任かと思います。

事務局（熊井副主幹）：

中村委員の推薦がございましたが、皆様いかがでしょうか。

異存がないようでしたら、拍手をもってご承認願います。

皆様にもご承認いただきましたので、中村委員に副会長をお願いできればと思いますが、よろしいでしょうか。

中村委員：

八千代市医師会の中村です。副会長をお引き受けいたします。

事務局（熊井副主幹）：

それでは、八千代市介護保険事業運営協議会会長は綱島委員に、副会長には中村委員にお願いいたします。

会長並びに副会長が選出されましたので、以降の議事進行につきましては、八千代市介護保険規則第60条第1項の規定により、会議の議長は会長が務めることとなっておりますので、綱島会長

に会議の進行をお願いしたいと存じます。

綱島会長：

ご指名をいただきました綱島でございます。

引き続き、会長職を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは代わって議事を進めさせていただきたいと思います。

ただいまの出席委員は14名でございます。

定足数に達しておりますので、本会議が成立していることをご報告申し上げます。

それでは、次第に沿いまして進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

議題2「八千代市高齢者等の保健福祉・介護保険ニーズ調査について」事務局より説明を求めます。説明の終了後に質問をお受けいたします。

事務局（岡崎課長）：

長寿支援課長の岡崎でございます。

議題2「八千代市高齢者等の保健福祉・介護保険ニーズ調査」について、説明いたします。

本日の協議会をスムーズに進行させていただくことを目的に、資料1、2につきましては、事前に送付させていただきましたが、本日、改めて、ご説明いたしたいと存じます。

それでは、私の方から、資料1の「八千代市高齢者等の保健福祉・介護保険ニーズ調査について」をご覧ください。

本調査は、令和6年度から8年度までの第10次老人保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定に向けての基礎資料として、調査対象者ごとに抱えている課題やニーズの抽出・把握をするために3年に1回実施するアンケート調査でございます。

調査は、①から⑤までの5種類の調査を予定しています。

今回、国からは「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」が示されました。この手引きでは、調査対象者、対象者別の調査票が示されております。

この手引きに基づいて実施するのが、括弧3、①の高齢者一般調査と、②在宅要支援・要介護認定者調査となります。

①、②は、国が作成しました「手引き」で示された設問に八千代市の独自の設問を追加して実施します。

①の高齢者一般調査の対象者は、65歳以上の市民で要支援・要介護認定を受けていない方を対象とします。

配布予定数は3,000人です。

次に、②の在宅要支援・要介護認定者調査ですが、こちらの対象者は、40歳以上の在宅で要支援・要介護認定を受けている方としております。

配布予定数は2,000人です。

続きまして、③の若年者調査ですが、こちらは国が示しているものではございませんが、前回に引き続き、市独自の調査として実施いたします。

対象者は、40歳から64歳までの市民で要支援・要介護認定を受けていない方を対象とします。
配布予定数は2,000人です。

いま、申し上げた①②③の調査票の配布、回収はすべて郵送で行います。

また、配布先の抽出に当たりましては、日常生活圏域、5歳ごとの年齢別などで標本を作成し、各区分から無作為で抽出する予定でございます。

続いて、④の在宅介護実態調査ですが、こちらは国が示した「在宅介護実態調査 実施のための手引き」に沿って実施いたします。

対象者は在宅で要支援・要介護認定を受けている方で、認定の更新申請及び区分変更申請に伴う認定調査を受ける方としています。

対象者が在宅の要支援・要介護認定者ということで、②の調査と重複しますが、設問が異なり、家族等介護者の就労継続などの実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的としており、国が示した調査票をそのまま使用いたします。

調査方法はこちらも調査票の配布、回収はすべて郵送で行います。

配布予定数は1,500人です。

本調査では国が示した回答件数の600件を確保いたします。

最後に⑤の介護保険サービス提供事業者調査ですが、こちらは国が示しているものではございませんが、前回に引き続き、市独自の調査として実施いたします。

対象者は、八千代市介護サービス事業者協議会の会員の方々をはじめ、広く市内事業者に回答をお願いする予定でございます。

続いて括弧4の調査時期ですが、①から③の調査は12月中旬に調査票を発送し、1月上旬を回答期限とする予定としております。④⑤の調査については記載のとおりです。

なお、①から③の調査につきましては、結果を国のシステムに登録し、地域や人口規模ごとの特徴や傾向等の分析に活用されます。

最後の括弧5ですが、調査の結果につきましては来年3月末までにとりまとめ、報告書を作成します。本協議会においては、来年7月に開催予定の会議において報告いたします。

調査全体の概要は以上です。次に、設問ポイントについては、熊井から説明します。

事務局（熊井副主幹）：

それでは私から、各調査項目について説明いたします。

資料2の「令和4年度八千代市ニーズ調査における設問項目案」をご覧ください。

まず、表の見方についてですが、一番左の列が調査項目と設問及び回答の選択肢、その右の3列は調査の対象区分で「高齢者一般」「在宅要支援・要介護者」「若年者」とありますが、対象ごとの設問の有無を示します。

なお、以後につきましては、「高齢者一般」を「一般」、「在宅要支援・要介護者」を「在宅要介護者」と呼ばさせていただきます。

次に、資料のタイトルのすぐ下を見ていただきますと、黒丸の上から2個目の説明でございます

が、調査対象欄の丸の下に、「必」とあるのは国が定める必須調査項目となり、設問の表現や選択肢を変更することはできません。

「オ」とあるのは国が定めるオプション項目で、調査を行うかは選択できますが、こちらも設問の表現や選択肢を変更することはできません。

「市」とあるのは本市独自の調査項目で、こちらについては設問の表現や選択肢を独自に設定することができます。

まず、1 ページ、2 ページの間 1 は、介護、介助者の基本情報を問う設問です。括弧 1, 2, 9 は「一般」、「在宅要介護者」調査で国の必須項目となります。

括弧 4, 5, 10 については、同じく「一般」、「在宅要介護者」調査で国のオプション項目です。

括弧 5～8 が市の独自項目で、詳細な情報の把握を目的としています。

また、括弧 1, 6, 9, 10 については、「若年者」調査でも設問を設定いたします。

次に 3 ページからの問 2 について、括弧 1～7 は、「一般」、「在宅要介護者」調査の国の必須項目となります。

これらの設問で運動器の機能低下、転倒リスク、閉じこもり傾向を問うことで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討に活用できます。

また、4 ページの括弧 8～10 については、移動手段を問う設問で、これは市の独自項目です。

前回調査から、設問の項目を再編し、高齢者の外出の際の移動手段の実態を確認し、地域の移動手段上の課題の把握を目的としています。

次に 5 ページの間 3、食べることに関する問いです。

食に関する各種質問により口腔機能の低下・低栄養の傾向を把握し、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討に活用します。

「一般」、「在宅要介護者」調査では、括弧 1, 2, 6, 10 は必須項目で、括弧 3～5, 7, 9 はオプション項目ですので、表現や選択肢の変更はできません。

括弧 8 の「定期的に専門的口腔ケアを受けていますか」の設問は、市の独自項目で、「若年者」調査にも、この設問を設定いたします。

また、括弧 10 の設問は、高齢者の閉じこもり傾向と孤食の関係性を把握するものになります。

次に 6 ページ、問 4 の毎日の生活に関する問いです。「一般」、「在宅要介護者」調査で、括弧 1, 4～8 は国の必須項目、括弧 2, 3, 9～12, 15～19 がオプション項目となります。

括弧 13, 14, 20 が市の独自項目で、括弧 13, 14 については、「若年者」調査の「健康について」の問いで設問を設定いたします。

認知機能の低下、IADL（こちらは、自立した生活を送る上で欠かせない能力）の低下、知的能動性（こちらは、情報を自ら収集して表現できる能力）の低下を把握し、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。括弧 13, 14 で介護予防・重度化防止に対する市民の意識を確認します。

なお、括弧 14 は、今回調査の新規追加項目です。

括弧 15～18 については、他者との関わりについて問う設問です。

この項目は、千葉県からも協力の要請があり、県内の高齢者の孤立の把握に役立てられます。

括弧 19, 20 は趣味・生きがいを問う設問で、本項目で社会参加の関係性を把握することで、社会参加する高齢者の傾向を把握するものです。

次に 8 ページの間 5, 地域での活動についての問いです。

括弧 1, 3, 5 が国の必須項目で、括弧 2, 4, 6 については、市の独自項目です。括弧 2 は、今回調査の新規追加項目で地域活動に参加しない住民に対する啓発活動の検討に活用いたします。

次に 9 ページの間 6, たすけあいについての問いです。

「一般」、「在宅要介護者」調査では、括弧 1 ～ 4 が国の必須項目で、うつ傾向を把握します。

括弧 5 ～ 8 は、オプション項目で、括弧 8 については、地域の相談経路、友人関係を把握するため、「若年者」調査にも設定いたします。

括弧 9 については、市の独自項目で、「一般」、「若年者」調査に設定することで、生活支援コーディネーターの活動内容や総合事業における多様な主体によるサービスの推進を検討することが可能になります。

続いて 10 ページ、問 7 の健康についての問いです。「一般」、「在宅要介護者」調査では、括弧 1 ～ 6 は国の必須項目です。

括弧 1, 2 については、「若年者」調査にも設定いたします。括弧 1, 2 で主観的健康感、主観的幸福感を問うことで、地域の健康度のアウトカム指標（施策等の成果を測る指標）として活用することが可能になります。

また、括弧 3, 4 でうつ傾向、括弧 5 でタバコの習慣、括弧 6 で現在治療中の病気を把握することで、要介護状態等になる原因等の地域課題の把握が可能になります。

括弧 7 は、かかりつけ医の状況を確認するための市の独自項目です。

次に 11 ページの間 8, 認知症に関する相談窓口の認知状況を把握する問いです。括弧 1, 2 については、国の必須項目で、「若年者」調査にも設定いたします。

また、括弧 3 ～ 6 は、市の独自項目で今回調査の新規追加項目で、市の認知症対策の施策の検討に活用いたします。

ここから先の、問 9 ～ 12 については、全て市の独自項目となります。

12 ページの間 9 では、「一般」、「在宅要介護者」、「若年者」調査の全ての調査で設問を設定します。

括弧 1, 2 で、高齢者福祉サービスの充実度を、括弧 3 で、在宅医療・介護連携推進事業における市民への終末期における、医療や介護サービスの認知度を把握します。

括弧 4 では、人生の最期を迎えたい場所を把握することにより、望んだ場所でのサービス実施体制の評価をすることが可能となります。

括弧 5 は今回調査の新規追加項目で、人生最後の過ごし方を家族や主治医等と話し合う、いわゆる「人生会議」の普及割合を把握し、在宅医療・介護連携推進事業の評価指標の一つとします。

括弧 6 は福祉施策への要望を問う設問となります。

次に 13 ページ問 10 は、介護保険制度、地域包括支援センターの名称、地域包括支援センター

の機能の認知度を確認する問いです。

14ページ、15ページの問11では、介護サービスの利用状況、利用状況の背景にある課題等を把握する設問で、「在宅要介護者」調査に設問を設定します。

最後に16ページ問12についても、「在宅要介護者」調査の設問に設定いたします。

ケアマネージャーに関する設問で、ケアマネージャーの選定理由、対応状況を確認して、過去の調査との経年変化を把握します。

長くなりましたが、設問案の説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

綱島会長：

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明に対しまして、何かご質問等ございましたら、ご発言いただきたいと思います。はじめに事務局から事前に質問のあった事項に対する説明をお願いできればと思います。

事務局（岡崎課長）：

それでは私から、事前にいただいている質問に対する事務局の考え方について、ご説明いたします。

資料3の「令和4年度八千代市ニーズ調査における設問項目案に対する質問」をご覧ください。

まず、表の見方ですが、左から質問番号、資料の関連箇所、質問の内容を記載しています。

また、説明の際は、質問内容をご覧ください、読み上げは割愛させていただきます。

はじめに、質問1～4についてお答えいたします。資料の関連箇所は資料1（3）④となります。

質問番号1について、資料4-2のとおり、調査票（案）を提示いたしますので、ご確認をお願いいたします。

次に2番についてですが、当初、長寿支援課の認定調査員の訪問時に聴き取り調査を行う方法を予定しておりましたが、現在、新型コロナウイルスの影響により、認定有効期間が特例的に延長することができるため、訪問による調査件数が大幅に減少しております。

このことにより、サンプル数の確保が困難であることから、今回は、特例で延長した方も含め郵送調査といたしました。

次に3番について、国の手引きによりますと10万人以上の都市では、サンプル数を600件とすることと示されており、本市のサンプル数として適切と考えております。

また、在宅調査については、前回は認定調査員による聴き取り調査で実施しましたが、同じサンプル数600を確保するのに5か月程度を要しています。

なお、600件のサンプルを確保した時点で調査は終了しております。

次に4番につきましては、本調査は、サービスの量を検討する基礎資料とし、回答のございましたアンケート結果に対し、事後的に、要介護認定データから、サービスの利用状況や認定審査会における審査結果等を関連付けし、分析されるものとなります。

簡単な分析につきましては、市町村においても可能ですが、詳細なものは、国からフィードバックされるかたちとなります。

このため、報告書の取りまとめ時期やボリュームの関係もございますことから、報告書への掲載は困難であると考えております。

続きまして、質問番号5～8についてお答えいたします。

資料の関連箇所は資料1（3）⑤となります。5番については、調査票が、まだ確定しておりませんので、前回の調査項目を資料4－3のとおり提示いたしますので、ご確認ください。

調査項目や内容につきましては、今後、事業者様のご意見もいただきながら調整を進めていきたいと考えております。

次に、6番について、報告書のボリュームの関係もありますが、調査票の掲載を含め検討してまいります。

最後に7番については、資料1（3）の①から④の調査が、全国一律に調査を行うことに対し、⑤は本市の独自調査となります。

また、①から④につきましては、調査件数も多く、調査結果を取りまとめた上で、国のシステムに登録する作業も必要となりますが、⑤につきましては、調査件数も少なく、連絡ツールであるケア倶楽部や電子メールの活用等により、短い調査期間で対応が可能と考えております。

しかしながら、これから調査を実施するに当たりましては、事業者様にもご意見・ご協力をいただきながら、丁寧に進めていきたいと考えております。

以上が事前にいただきました質問に対する事務局の考え方となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

綱島会長：

ありがとうございました。

それでは、今の説明も含めて、何かご質問ございましたら、ご発言いただきたいと思います。

田中委員：

大事な次期の計画の調査ということで、ご説明いただきありがとうございます。

3年に1回調査をされるということになるかと思うのですが、前回調査の回収率が分かれば教えていただきたいのですが。

事務局（熊井副主幹）：

はい、ではお答えさせていただきます。

資料1（3）の①～③のニーズ調査、こちらの回収率でございますが、対象区分別となりますけれども、高齢者一般65歳以上の方から無作為に選んだ対象者、こちらの有効回収率は60.4%。

続きまして、在宅要支援・要介護認定者、こちらにつきましては、50.5%。

続きまして、若年者、こちらにつきましては、37.1%。

こちらが前回の回収率となります。

田中委員：

どうもありがとうございました。

貴重な調査ということになりますけれども、やはり40歳～64歳の若年調査の回収率が市独自のものということではあるんですけれども、37%ということでもう少し回収率を上げるような工夫として、もし何か考えていらっしゃるようであれば教えていただきたいのですが。

事務局（熊井副主幹）：

若年層は先ほど申し上げたとおり、市独自の調査となりまして、こちらは国の方で分析されるデータではなくて、市独自の分析をさせていただくジャンルの対象者にはなっていますが、郵送のタイミングであったり、封筒の表面に調査票が入っておりますのでご協力をお願いしますといった形で表記をさせていただきまして、なるべく回答をしていただけるような形をとっていきたいと考えております。

田中委員：

ありがとうございます。

将来を見据えた若い方たちが街づくりに参画できるように多くの方が調査にご協力いただけるといいと思うのですけれども、今で言うと電子データっていうようなところで、その方が取りかかりやすいという問題でもあるかと思うんですね、Web調査みたいなことも考えられればいいかなと思いました。

それから、高齢者向けの調査なんですけれども、調査の中の資料2の3ページ目で、問2の(7)昨年と比べて外出の回数が減っていますかという設問があって、これが必須項目で質問の表現も変えられないということではあるんですけれども、調査時期が12月から1月っていうふうに年をまたがっていることに対して、昨年というような設問で混乱してしまうようなことはこれまでは無かったのでしょうか。

事務局（熊井副主幹）：

確におっしゃるとおり、ちょっと時期を示す表現としては混乱を招く可能性もございますが、前回調査と同じ設問になっておりまして、こちらも先ほどご説明のとおりですね、過去の調査からの経年変化、この辺を分析したりだとか、国の方にもデータの方を登録させていただきまして、八千代市以外の地域でもどういう傾向になっているかといったところを分析させていただくような設問となりますので、おっしゃるとおり設問の表現としてはあまり好ましくはないのかなというところではございますが、今回は国の必須項目となりまして、設問項目と選択肢については一言一句変えられないものでございますので、申し訳ございませんがこのまま調査をさせていただきたいと考えております。

田中委員：

ありがとうございました。

金田委員：

資料4-2の調査票としては、お年寄りのところに届くのはこういった形で届くのでしょうか。

事務局（熊井副主幹）：

先ほど資料１の①から③のこちらの調査につきましては、すいません、本日はサンプル１つしかつけておりませんが、高齢者一般調査票と在宅と若年者の調査につきましては、冊子のような形で送らせていただきます。

金田委員：

すいません、こちらの資料だと思ったので、こっちだと、うちの母は理解しにくいかなと思ったんですけど、こちらであればお年寄りでもいけるのかなと思います。

事務局（熊井副主幹）：

こちらの調査も実際には、実施することとなりまして、先ほど２番の在宅要支援・要介護認定調査についても対象はこちらになるんですが、それとは別にまた在宅介護実態調査こちらの調査票も送らせていただくような形になってしまいます。

ただ、こちらの調査につきましては、できるだけご本人様に回答いただければというところではあるんですが、やはり本人のことがよく分かってらっしゃるご家族であったり、ケアマネージャーの方がご回答いただくような形もとれますので、こちらもですね、先ほど国の方からも調査票のレイアウトは、あらかじめ示されているものでありますので、こちらもちっと形が変えられないものになってしまいますから、大変申し訳ないのですが、この調査票で進めさせていただきます。

金田委員：

分かりました。

綱島会長：

他にございませんでしょうか。

質問がございませんので、以上で議題２を終了いたします。

最後に、事務局から報告事項が１点あります。

事務局（熊井副主幹）：

八千代市介護保険事業運営協議会の開催スケジュールについて、ご説明いたします。

資料５の「令和５年度八千代市介護保険事業運営協議会の開催スケジュール」をご覧ください。

来年度は、計画の策定年度でございますので、５回の会議を予定しております。

まず、第１回は来年７月を予定しておりまして、議題といたしましては、今年度の実績報告と今回のニーズ調査の結果報告などを予定しております。

第２回会議では、計画の骨子をお示しさせていただく予定です。

第３回会議では、開催時点での計画の素案をお示しさせていただく予定です。

第４回では、より最終案に近づいた素案をお示したいと考えており、ここでの素案をもとにして、令和５年１２月頃から、計画の素案に対する市民の意見を募集するためのパブリックコメントを実施する予定です。

また、次期計画期間における介護保険料についても第４回会議では概算でお示しできると思い

ます。

令和6年2月に開催予定の第5回会議では、パブリックコメントの実施結果と計画の最終案をお示しさせていただく予定です。

来年度の協議会の開催スケジュールにつきましては、現時点での予定でございまして、国が示す計画策定に関する指針等の内容や作業の進捗状況等によっては、開催時期や内容を変更する場合がございますので、ご了承願います。

私からの説明は、以上です。

会長：

ただいまの報告に対しまして、ご質問等ございますか。

津川委員：

スケジュール含めてありがとうございます。

先ほど第1号議案で質問しなかったのは、ほとんど私の質問に対してきちんと丁寧にご回答いただき、なおかつ、資料サンプルを出していただいたと。

市民の皆様に分かりやすく、でも逆に混乱させてしまったのかなと思いますが、このことじゃなくてやっぱりサンプルがどういうものか、それを見て答えられるのかといったところを真剣に考えてほしいなと。

郵送方式で仕方ない時代ではありますが、私たち介護サービス事業者協議会はですね、親身にご利用者様に寄り添う形でその回答に対してきちんと一緒になって答えられるように努力すべき時期が来たのかなと思っています。

私の質問をですね、会長には大変失礼ではございますが、第2回ではなく第1回のことが一切触れていないのでちょっと触れさせてください。

第1回の八千代市介護保険事業運営協議会が、先般、書面にて行われて、11月8日付で周知のとおりきちんと21項目の質疑が出て、それに対して八千代市がきちんと回答いただいています。

令和3年度の実績に関すること。このことについて一切報告がなされていません、会長。

大変失礼ですが、会長では難しいかと思っておりますので、このあたり、それから最低でも質疑の中で地域包括支援センターに関わることがあったので、事務局から所見でも結構です、どういうふうなことが第1回のところであって、こういう形の質疑があってこういうふうに答えた。簡単で結構ですから皆さんにご説明いただけますか。

そうでないと、3年度の実績報告があって、そしてニーズ調査に関することがあって、来年の7月につながるという計画だと思っていますので、どなたでも構いませんからちょっとだけ教えていただけないでしょうか。よろしくお願いいたします。

事務局（熊井副主幹）：

大変失礼いたしました。

先ほどのご説明のとおり、昨年度第1回と今年の第1回につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もございまして、お集まりいただいている方の中には、いわゆるエッセンシャルワーカー

一の委員さんもおられますことから、書面開催という形を取らせていただきました。

それぞれ議題とさせていただきました、各年度の実績報告、こちらにつきましては、現在、本市が置かれている介護保険の背景といたしまして、いわゆる2025年問題、団塊の世代がですね、75歳に到達するという年度が近づいていることもございまして、介護給付費につきましては、年々増加傾向でございます。

八千代市におきましては毎年6億円ずつですね、上昇しているというような状況でございます。

ただ、令和2年、3年におきましては、新型コロナウイルスの影響で、一時ですね、緊急事態宣言なんかも出されましたので、介護サービスが落ち込んだところもありましたが、その後、皆さん慣れてきたといいますか、そういったところで介護給付費が元に戻りまして、先ほどのとおり、後期高齢者の増加に伴ってですね、給付費の増加というのは、現在も続いているところでございます。

こういった中で特徴ではございますが、2025年問題が75歳、団塊の世代が75歳に到達する中でですね、逆に生産年齢が急激に減ってきているというような背景もございますので、今後におきましては、また、支える方の人口っていうのも減少してまいりますので、それを含めた介護サービスの在り方というのを検討していかなければならないというふうに考えております。

私からは以上となります。

事務局（高倉所長）：

地域包括支援センターの高倉と申します。

先ほどのご質問の中で、3年度の実績についての回答をというご質問があったかと思います。

ご質問の中に、圏域の見直しをしたかどうかというご質問があったかと思います。

こちらの方の見直しについてなんですけれども、現在、7圏域で6包括の設置をしております。

やはり圏域ごとに高齢者層の分布というのが変わってきておりますので、こちらの圏域の見直しに関しましては、次期計画の中で見直しをしていきたいと思っております。以上です。

津川委員：

ありがとうございます。

皆様のご承知のとおり、先般、文書にて皆様の方に説明があつて、これだけの回答をですね八千代市がきちんとやってくれています。

皆さん目を通していただいていると思いますけれども、本件に関しては、きちっと質疑もあり、八千代市が誠意を持った形で対応されているということについて、私個人的にも評価をさせていただければと。

これをもってですね、云々じゃないんですけれども、今後やはりこれとこのニーズ調査がやっぱりきちっとあつて、次期計画の素案につながるものだと思っておりますので、これがやっぱきちんと今日説明されるべき、対面において説明されるべきだと思っておりましたので、質問させていただきました。2点であります。

急ではありましたが、ご回答ありがとうございました。私からは以上です。

綱島会長：

他にございませんでしょうか。

無いようですので、これもちまして本日の八千代市介護保険事業運営協議会を閉会いたします。
長時間にわたり、ご協力を賜りありがとうございました。

午前11時 会議終了